

2017年度事業報告

(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

1、フードバンク事業

消費するには十分に安全な食品等の廃棄される余剰食品(食品ロス)を個人や企業から寄贈してもらい、地域の福祉施設・団体及び生活困窮者個人に提供する事業です。

今年度は「フードバンクを地域の仕組みに」と題した講演会の開催や、世界食料デーに合わせた市庁舎フードライブ等を通じて広報を積極的に行いました。その結果常設の食品寄贈受け先の拡大や生協4団体の協力もあり、大幅な食品在庫量の拡大となりました。食の提供を通じた地域の団体との緩やかな連携・情報共有も少しずつ広がり、地域で必要とされるフードバンクとして着実に前進できました。

(1) フードドライブ (別紙表1参照)

① イベント・講演会でのフードドライブ

今年度は計8回の実施で合計544kg(昨年度471.3kg)の食品寄贈がありました。

2017年6月11日	こまエコ祭り
7月23日	講演会
10月1日	ボランティアの集い
10月7日	くらしフェスタ
10月16日~18日	世界食料デー
11月18日	パルシステム粕江センターいきいき祭り
2018年2月3日	パルシステム東京映画祭
3月9日~11日	中央公民館の集い

計8回
合計544kg

② 生活協同組合3団体のフードドライブ

昨年度から続く東京南部生協フードドライブに続き、今年度はコープみらいのブロック委員の企画で染地店でのフードドライブが始まりました。また、東都生協入間センターでも組合員にフードドライブを呼びかけるなど、生活協同組合との連携が広がりました。

17年9月・18年3月	東京南部生協組合員	666,2kg
18年1月~(月1回)	コープみらい染地店	31kg
1月~2月	東都生協入間センター	130kg

③ 常設の食品寄贈ケースを市内4か所に設置

食品寄贈受付場所は前年度まで市民活動支援センター「こまえくぼ1234」のみでしたが、今年度からは計4か所となりました。また2018年4月26日からは粕江市社会福祉協議会(あいとぴあセンター内)の設置も決まっています。

①	16年9月～	市民活動支援センター こまえくぼ 1234
②	17年7月～	こまえ正吉苑（西野川）
③	17年8月～	こまえ苑（岩戸南）
④	18年2月～	狛江市ビン・缶リサイクルセンター（月1回）

寄贈量 469kg
(昨年比 4 倍)



こまえ正吉苑にフードドライブ BOX を設置



東京南部生協からフードドライブ食品寄贈

④倉庫拡張により食品提供受け入れ可能量が増加

昨年末の倉庫/連絡事務所移転による保管スペースの拡大で、企業・団体から食品ロスを活かすために提供依頼の災害備蓄品等を受けることにより、入庫量が増大しました。



- ・コカ・コーラボトラーズジャパン(株)(全国フードバンク推進協議会幹旋)
- ・企業・団体からの災害備蓄品等
- ・連携企業 Kansei(株)／福島県産のお米を定期的提供の東京すずらんの会
- ・他都市からの宅配便／市民からの寄贈

(2) 地元や周辺地域の福祉団体への食品提供（別紙表2参照）

①連携団体へ積極的に支援提供し、合計は計 137 回、約 3.516 kg(昨年度 60 回、993kg)でした。

食堂系団体	こども食堂、困窮者向け食堂など	6 団体
市内諸団体	障がい者（児）、子ども、高齢者、困窮者支援団体	8 団体
市外諸団体	困窮者支援団体、福祉施設、簡易宿泊所など	3 団体

②周辺フードバンクとの寄贈食品のシェア

昨年 12 月任意団体としてフードバンク調布が立ち上がり、4 月から実質的な活動を開始しました。フードバンク調布へは 2 月から食品を提供を始め、これまで食品等をシェアしているフードバンクかわさきと合わせて 13 回、1,124kg を狛江から提供しています。また、フードバンク板橋から提供を受けるなど、今後周辺の「地域フードバンク」との食品のシェアを通じた連携が期待されます。

2、食のセーフティーネット事業

行政、社会福祉協議会、施設や団体、町会や市民または学校などと連携協働し、生活困窮者に対して食料支援及び必要に応じた生活相談自立支援を行う事業。

狛江市の生活困窮相談窓口こま YELL と連携した食料支援回数は月平均 40 回に増えました。また、こま YELL の学習支援世帯にお菓子や飲料を提供し喜ばれています。一方で相談窓口に来ることができない状況にある困窮世帯へ、支援が届いていないという課題も明らかになって来ました。

他都市へは、電話や SNS で繋がった方達の SOS に対し緊急支援として食料提供しています。

(1) こま YELL を通じた食料支援 (別紙表 3、4 参照)

① 増加する支援要請への対応と食料提供の状況

開所日にはこま YELL に届けるため市庁舎へ毎回車で配送しています。木曜開所日には翌週の支援世帯情(個人情報のため氏名は番号表示で対応)を受け取り、世帯の細かな情報に合わせた食品のセットを心掛けました。

また今年度は、月に 1 回の緊急支援は 48% で月 2 回以上の継続支援が増えていますが、食品寄贈入荷量の増加で十分対応できるようになって来ました。世帯構成では昨年と変わらず単身世帯が全体の約 67% を占めています。ひとり親世帯は 15 世帯(こま YELL 調べ 32 世帯)でした。

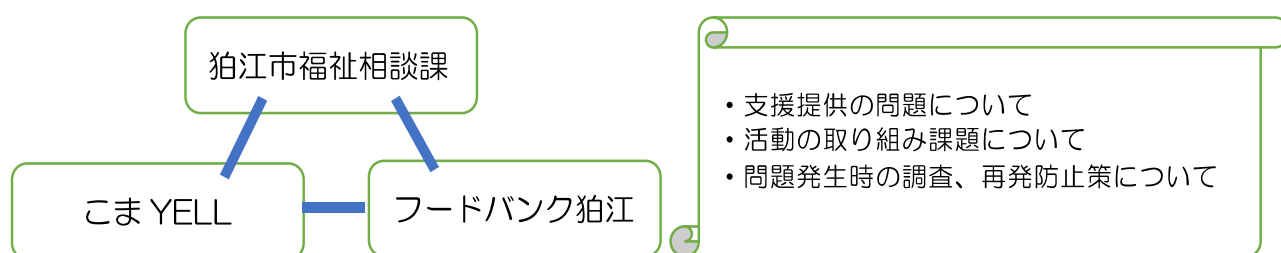
	昨年度	今年度
月の平均支援回数	20 回	40~50 回
支援世帯数	78 世帯	100 世帯
提供回数	233 回	478 回
出庫量	1,112kg	2,780kg

② 学習支援世帯へのお菓子や飲料の提供

「家計が厳しくなかなかお菓子を買えない」という状況があることを知り、こま YELL が実施している生活困窮世帯を対象として家庭に訪問しての学習支援に、夏休み前やハロウィン、クリスマス、卒・入学時期にお菓子や飲料を提供しました。こま YELL の学習支援ボランティア交流会に参加し、子供たちに大変喜ばれ、学習意欲の向上にも繋がっていると知ることができました。

③ 三者協議の実施状況

活動に関する様々な問題の解決のため、狛江市福祉相談課とこま YELL、フードバンク狛江で三者協議を年 4 回開催しました。11 月の協議では、「生麺にカビが出ていた」との利用者の声を受け、調査や対応策、再発防止に向けた協議を行いました。今後も協議の場を通じて、緊密な連携を図ることが必要です。



(2) こま YELL 以外の緊急食料支援の状況

公的な支援窓口が閉まっている時の市民からの SOS や、他都市からの SOS などがあった際には、1 度限りの緊急支援であることを了承してもらい食料提供をして来ました。その際には継続支援が必要な状況を聞いて、公的・民間の支援団体や他のフードバンクの紹介をしています。今年度は継続して支援している 2 世帯を含めて 14 世帯に 22 回 357.4kg を提供しました。

(3) 食の支援を必要とする生活困窮者と繋がるために

7 月に学校教育課の協力で市内の小中学校校長会で「夏休み緊急食料支援」を提案。その後全 10 校へ訪問して支援を必要と思われる家庭に「食料支援申込み」を渡すよう依頼しました。

しかし大半の学校は難しいとの姿勢だったため、10 月の「世界食料デー、市庁舎フードドライブ」のチラシにフードバンクの食料支援を記載し学校を通じて全校生徒に配布しましたが、一件の問い合わせもありませんでした。「見えない貧困」にどう取り組むか、課題を残しました。



母子世帯(中 1、小 4)への提供食品の例



学習支援世帯にクリスマスのお菓子を提供

3、フードバンクの普及・啓発事業

「もっと知って、フードバンク」講演会の開催や市庁舎でのフードドライブの実施、世界食料デーのパネル展示のためのチラシの掲示を始め、常設の食品寄贈受付場所周辺の町内会への広報にも力を入れました。その結果、講演会参加者だけでなく市民にもフードバンクを知ってもらい食品寄贈の増加へ繋がるなど成果を上げることができました。

(1) 講演会・イベントの開催

① フードバンク講演会「もっと知って！フードバンク～フードバンクを地域の仕組みに」

2017 年 7 月 23 日、狛江市と狛江市社会福祉協議会の後援で講演会とリレートークを開催しました。フードバンク活動は地域の力を寄せ合って地域全体が動ける仕組みにすることが大切で、食料支援は地域の様々な支援の輪の中にあってこそ生きてくることを学びました。商工会や JA、労働組合など地域の諸団体に足を運ぶなど積極的な広報活動の結果予想を超える 107 名が参加し、地域への広がりを感じることができました。

(冊子の事業報告参照)

内容	第一部:講演会 第二部:リレートーク
講演会講師	フードバンクふじのくに・鈴木和樹事務局次長
リレートーク参加団体 (地域 5 団体)	こま YELL、NPO 法人遊育会・狛江パルシステム東京 介護支援専門連絡会、子ども家庭支援センター
参加人数	107 名

②世界食料デーのパネル展示とそれに伴う広報活動

10月の狛江市庁舎ロビーで実施したフードライブに合わせて、食品ロス問題の啓発活動として昨年に続き世界食料デーとフードバンクの広報を行いました。

パネル展示では、食品企業から廃棄される大量の食品を回収して食品リサイクルとして豚の飼料に蘇らせている日本フードエコロジーセンター（代表は狛江市在住）の取り組みについて展示しました。それに伴う広報活動としてはポスターとチラシ 9000 枚を作成し、市内に配布、掲示しました。

期間	10月16日～10月18日
パネル展示内容	日本フードエコロジーセンターについて
広報活動内容	チラシ 9000 枚、ポスター 500 枚を作成
チラシ配布	町内会回覧板、小中学校全校生徒等
ポスター掲示場所	町内会掲示板、公共施設、小売スーパー等
情報掲載場所	広報こまえ、公営掲示板



もっと知ってフードバンク講演会の様子



世界食料デーに市庁舎ロビーでパネル展示

③理事長による講演

東京南部生協の依頼を受け、理事長である田中妙幸が大田区で講演を行い、動画などを用いた資料を作成してフードバンク狛江の活動を広報しました。

(2) 媒体を利用した広報活動

各媒体を通して、食品寄贈やボランティア希望、困窮者からの食料支援 SOS の連絡が寄せられました。

①紙媒体

イベント・講演会開催に向けてチラシやポスターを作成し活用しました。今年度はチラシ・ポスター・リーフレットの作成に「草の根市民基金ぐらん」の助成金を一部活用しました。

ニュースレター	2017年4月から約3ヶ月に1度、No.10～No.14の計5回発行。
チラシ	合計13,500部作成、配布
ポスター	合計600部作成、配布
リーフレット	1300部増刷

②インターネット媒体

facebook	開所日ごとに更新
ホームページ	イベントの告知や報告、スタッフ紹介を随時更新

③テレビ、新聞など

・17年7月:東京新聞、J:COM / ・10月:毎日新聞 / ・18年3月:共同通信社

④その他

- ・㈱和泉エンジニアリングサービス(東和泉)の専用掲示板や支援者宅での掲示。
- ・市のビン缶リサイクルセンターフードライブやイベント実施時に当団体活動紹介パネルを展示。

4、フードバンク活動を普及するための調査・研究事業

・17年7月:講演会アンケートの実施。(別紙参照)

5、団体基盤の確立・倉庫/連絡事務所活動の充実に向けて

(1)食品管理方法の見直しと事務所機能の強化

①食品の受入れ～提供までの食品管理見直しとマニュアル作成

食品の区分整理と記録方法について食品管理委員会を立ち上げて議論を重ね、安全な食品提供のための目視マニュアルと効率的な食品記載・管理方法の簡素化を図りました。

こま YELL への支援回数の増加に対応するため、今年度からは食品提供時の利用者との同意書見直しの上で納品書記載事項の簡略化を図ってきました。

②食品衛生講習の受講

安全な食品提供のために、東京都の食品衛生講習会に食品管理委員会の3名が受講し、また農水省委託の流通経済研究所主催のフードバンク食品衛生講習会にも参加してきました。今後も引き続き食品管理にかかわるメンバーは、随時講習会へ受講を予定して行きます。

③有償スタッフの配置

開所日の担い手不足と活動や事務分担ができていないことから、今年3月から有償スタッフを1名配置することになりました。

(2)会員拡大状況と事業資金確保の活動

①会員拡大状況

現在正会員50名(昨年44名)、賛助会員個人41名(昨年27名)、団体6(昨年6)で、賛助会員個人は昨年の1.5倍拡大を果たしました。団体は6のままで今後の課題です。

②事業資金の確保

今年度は狛江市の家賃補助と中央ろうきん助成金、草の根市民基金ぐらんの助成を受けて事業を進めてきました。また、事務所移転に伴う経費捻出協力への呼びかけに47名から322,000円の寄付をいただきました。今年度はその他、28名2団体から30万円を超える寄付がありました。

地元の企業・商店への賛助と連携の獲得を目指した訪問活動は実行できませんでしたが、財政基盤の確

立のために会員の拡大と企業・商店への訪問活動による寄付金の獲得を積極的に行うとともに、クラウドファンディングの活用など新たな資金確保の検討も必要になっています。

(3) 活動の企画内容や情報の共有化の為の諸会議の開催

① 諸会議の開催状況と課題

理事会は毎月定期的で開催し、活動の企画執行と振り返りを行って来ましたが、しかし議題が多く十分な議論ができない状況から、実質的な活動の企画執行を事務局と事務局会議を設置して進めてきました。また

第4日曜日のオープン参加のボランティア会議は毎月開催でき、活動や情報の共有化や自由な意見交換の場として定着してきました。一方で諸会議と重なる議題も多く、その運営方法の見直しを進めています。その前段の月一の日曜開所日活動も行ってきましたが、活動内容が不明確で検討課題となっています。

② ボランティアスタッフ研修の実施

今年度はボランティアスタッフの研修として、「フードバンクふじのくに」と「フードバンク八王子えがお」を視察し交流を図り、フードバンク狛江の活動や運営など振り返る良い機会となりました。

また、今年2月のボランティア会議で活動の情報共有や組織面の課題を自由に討議する場としてワークショップ形式で研修を行い、今後も継続的に実施することとしています



地域の団体の皆さんと倉庫/連絡事務所で交流



ワークショップ形式でのボランティア研修の様子

2017年度食品等を寄贈いただいた企業・団体様一覧

マルコメ株式会社／コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社／ロイヤルインダストリーズ株式会社／株式会社 KANSEI／山芳製菓株式会社／株式会社オシザワ／NTT テクノクロス株式会社／株式会社八海山／株式会社美貴本／株式会社毎日新聞社会／株式会社アルステクネ／株式会社ティーガイヤ／有限会社くろすとーく／農事組合法人ハヶ岳キングダム／一般社団法人食品ロス・リポーンセンター／生活協同組合コープみらい／東京南部生活協同組合／東京南部生協／3色パステルアート／正受院／東京すずらんの会／フードバンクかわさき／フードバンク板橋／賢隆山久遠寺（おてらおやつクラブ）／多摩川住宅2号棟防災部／南下むつみ会／日大商学部秋川ゼミ／健康マージャンの会「こま・A」／こまえ市民広場ラジオ体操会／狛江菊花会

別紙

表1

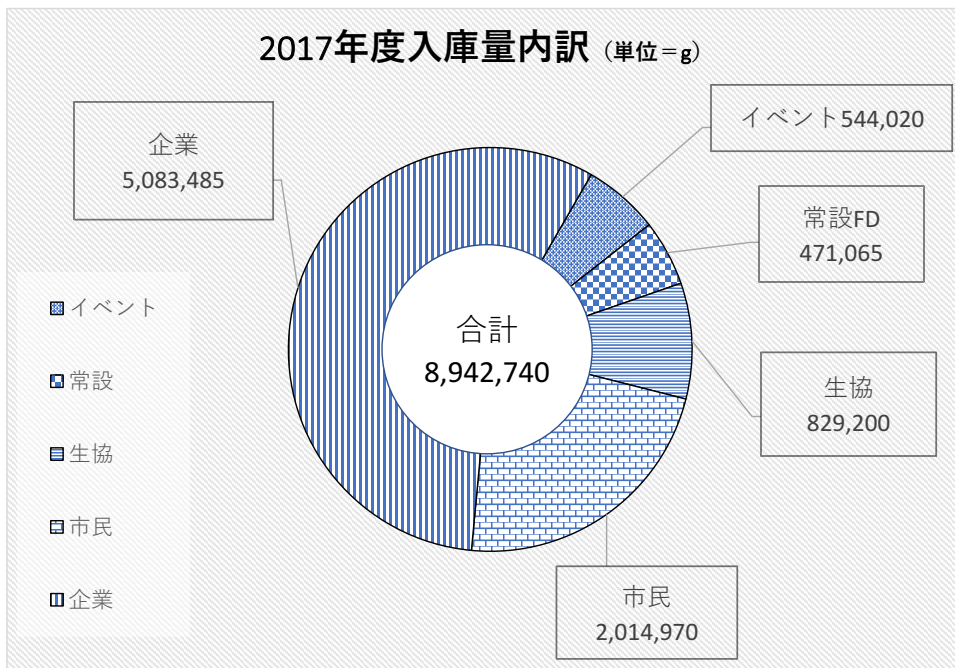
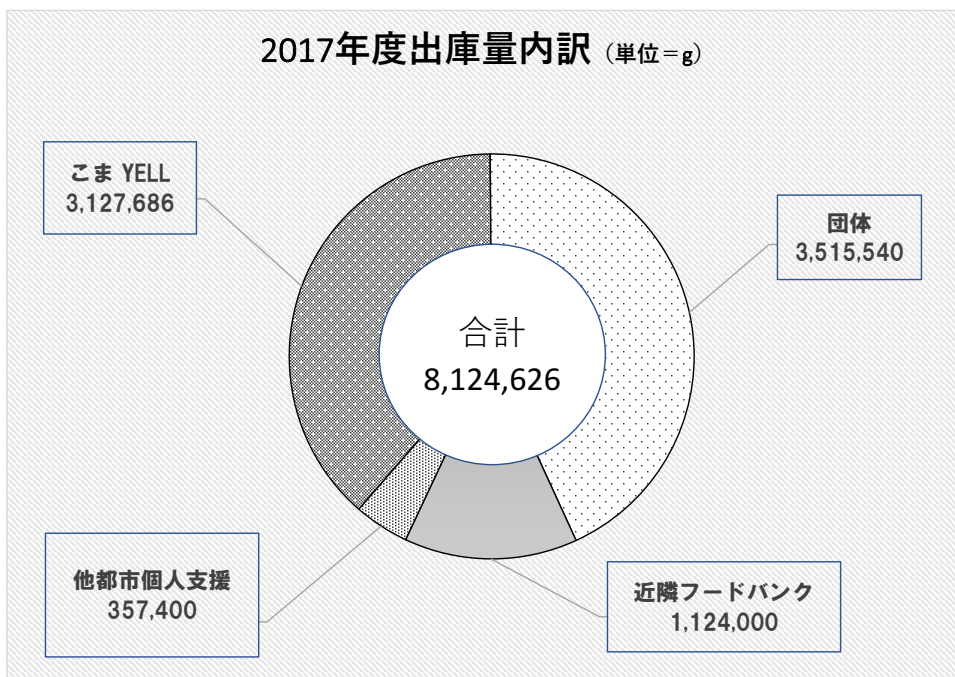


表2



別紙

表3

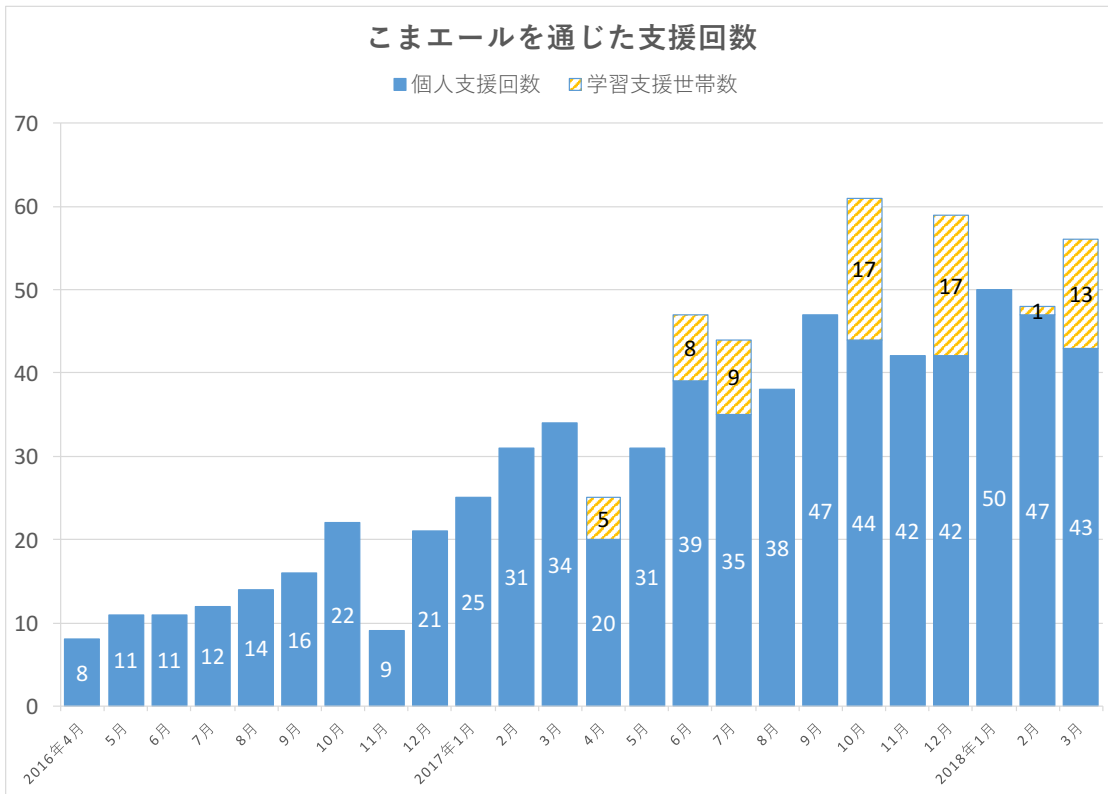


表4

